

# 高年齢労働者への安全教育

近年、林業に限らず、高年齢労働者による労働災害が増加しています。安全対策は以下のような対策が必要になっているので、確認し注意しましょう。

体の衰え	労働災害	対策
視力が落ちる	○段差が見えず転倒した。	・通路に段差等を作らない。 ・照明を確保した。 ・注意表示を拡大した。
	○機械の操作装置の表示が見えず誤操作した。	・操作装置の文字を拡大した。 ・不必要な機能を削除した。
	○有害物のマスク着用表示が見えずばく露した。	・表示を拡大した。 ・簡潔な表現にした。
聴力が落ちる	○合図を聞き間違え機械の電源を入れた。	・指示内容を返答させた上で動作するようにした。 ・イヤホーンを使用させた。
	○フォークリフトの警音が届かなくなった。	・パトライトをつけた。 ・人との通行区分帯を設けた。
重いものが持てない、膝を曲げたり体を振ったりすることが困難になる	○10kgの荷を運搬して腰に痛みがあった。 ○車両点検作業での不自然な姿勢で体に痛みが発生した。	・作業開始前にラジオ体操をとり入れた。 ・人力での運搬工程を短くした。 ・台車での運搬を中心にした。 ・荷を小分けした。 ・リフトを導入し立って点検ができるようにした。
高いところへの昇り降りがづらくなる	○固定垂直はしごの昇り手で手を離しそうになった。	・固定垂直はしごを階段に変更した。 ・固定垂直はしごの途中に踊り場を設けた。
体のバランスをくずしやすくなる	○脚立作業で壁の釘を抜いたときにバランスをくずして転落した。	・押したり引いたりする作業では足場を組み立てることとした。
物覚えが悪くなる	○教育を受けた作業手順と異なる作業をした。	・繰り返し教育をした。 ・要点がわかりやすいように図を入れたり文字を大きくしたりして改善した。

## ゼロ災害を目指すためには…

「気を付けているはずなのに、なぜ事故が起きるのか」永遠の課題です。気を付けている度合いは人それぞれなので、それを統一するためには毎日のコミュニケーションが必要です。例として、事故が起きる要因として大きく3つあります。

- ① イライラしたり、カッカしたりして精神が不安定な状態。
- ② 慌てている時や、納期が迫り時間に追われている時。
- ③ 気が緩んだ時や、疲れていた時、昼食後お腹いっぱいだったり、仕事が単調の時。

こうした分析により、最も心掛けることは、「慌てさせないこと」。現場の作業を進めたいという思いから、せかせせたり、スピードを上げがちですが、それが一番の危険につながります。怪我無く確実に作業を行うことを一番として、フォロー仕合いながら仕事をしていくことを忘れずに行いましょう。

◎伐倒作業中追い口切りをしていた時に、チェーンソーのガイドバーが挟まり、携帯用のくさびを1本打ち込んだが、ガイドバーを外せなかった。そのためくさびを取りに行った際、現場写真を撮りに来ていた被災者が来ており、一緒に戻って来た時に突風が吹き、立木が倒れ被災者に激突する事故が起きました。作業中断をせず、道具の補充と準備をし、燃料チェックと、技術チェックも行いましょう。

# 依田林業新聞

発行所

(有) 依田林業  
塩山事務所  
総務部

### 今月の一言

間違いをせずに生きる者は、  
それほど賢くない

### 災害事例

◎4月16日青森県において、伐倒木が、予定の伐倒方向とは反対の方向に倒れ、死亡事故が起きました。